UN WOMEN NATIONAL COMMITTEE JAPAN
United Nations Entity for Gender Equality and the Empowerment of Women
Tokyo Committee

UN Women東京 News Letter Vol.2

UN Women（国連女性機関） 日本国内委員会東京地域委員会 2011.7.30

震災の復興を歌に託して…

古賀政男音楽博物館内「けやきホール」で熱唱する

UN Women 東京 第17回 チャリティコンサート

オペラとカンツォーネの夕べ *風の翼にのせて*

6月17日（金） 18：30～

新進気鋭のふたりのオペラ歌手を前に、本来のオペラの歌曲と庶民が歌い続けてきたイタリア民謡を半々に取りいれてほしいと贅沢な企画を持ち出して、1年半。やっとその日が来た。その間、あの忌まわしい3月11日の大震災を経て、直後に予定されていたおふたりのコンサートはすべて中止、今回が震災後初のスタートとなった。私たちもUN Womenとなって初のコンサートだ。なんとか来ていただく皆さんに喜んでいただけるように、双方当日まで全力投球の日々であった。

このような災害の中で、人間の芸術の力を再認識して元気になりたい、6月17日の夕刻、小ぬか雨のなか220の席を埋めた観客の皆さんはそんな思いで集われたのではないだろうか。

ソプラノ歌手、藤田美奈子さんの美しい声のナレーターで始まった。第1部はバリトンの手登根直樹さんが「フニクリフニクラ」の作曲で知られるデンツァの名曲「妖精の瞳」を歌い、テノールの川野名康夫さんは、オペラ花盛りの時代にサロン用の歌曲をたくさん残したトスティの1885年の作品、名曲「マレキアーレ」で幕を開けた。

さらに、19世紀イタリアオペラを代表する作曲ベッリーニの「追憶」またおなじみの、プッチーニ作曲『トスカ』より「星は光ぬ」で観客はひとつに溶け込んだ。次に伴奏者大石祥之さんのピアノのソロで、ドビュッシー作曲『ベルガマスク組曲』より「月の光」を演奏。前半の最後はオペラならではのコミカルな二重唱でドニゼッティ作曲『愛の妙薬』より「勇気を出せ！たぶん天の神様が・・・」にオペラの醍醐味を満喫した。

第2部はイタリア国内はもとより世界中で愛され続けている名曲「カタリカタリ」を川野名さん、ナポリ民謡「サンタルチア」を手登根さん、「オーソレミオ」「帰れソレントへ」を川野名さんが絶唱。人間が持つ芸術の極みに、場内はまさに、感動の坩堝となった。アンコールでは、大震災の一日も早い復興を願って、『ふるさと』を全員で歌い、最後は「Time to say good-by」をおふたりが熱唱した。終了後、来場くださった皆さんから「すばらしいのひとことです」「生きる力をもらいました！」と絶賛の声が絶えず、若い女性は「オペラを初めて観て、はまりそうです！体が楽器のようで、身一つで表現しているようで、圧倒されました」と目を輝かした。

10月 秋の“講演会” お楽しみに！

この現実を見過ごせない

「いくつもの壁にぶつかりながら」

・・・カンボジアの子どもたちの笑顔のために

講師　村田 早耶香　氏（NPO法人「かものはしプロジェクト」共同代表）
日時　10月19日（水）　午後1：30～3：30
会場　津田塾大学同窓会会議室
資料代　500円

若かったら、私もスタッフに入りたいと思う方も多いのではないでしょうか。カンボジア現地に根を下ろしたNPO法人。30人のスタッフでの現地の活動資金を日本の国内の収益事業でまかなうというNPOとして珍しいモデルで、今注目を集めています。サポーター会員は2000名を超えます。

11月のコンサートのお知らせ！

ソプラノ歌手　川本伸子が贈る
「ひとり歌芝居」

日時：11月29日（火）開演 16：30～
会場：深川江戸資料館ホール（東京メトロ大江戸線「清澄白河」下車）
全席自由席：4,000円

郷愁の“日本民話”をあるときは悲しく、あるときはおもしろく自由自在に演じ、唄う。その魅力に迫る！

《演目》
- 蜘蛛の糸（芥川龍之介原作）
- くらげのおつかい（日本昔話より）
- 山姥の里帰り（川本伸子案）
- 鳥取の蒲団（小泉八雲原作）

上半期のバザー活動・・・雨の中でもやりぬきました。

オールソフィアンの集い

けやきホール

＜ホームページ＞

UN WOMEN 東京の名称変更に伴い、アドレスが変わりました！

新しいホームページアドレスは、http://unwomentokyo.org です。

いままでのユニフェム東京のページから自動的にジャンプします。

＊ご入会 ご寄付をいただきありがとうございます。

新規会員: 大村あけみ　安藤綾子　加藤弘子　矢代俊子　蓮見ゆり子　太田美佐　岩崎芳枝　武田 京

寄付者: 泉　三和子　江尻美穂子　山田美也子　渋川弘子　有馬真紀子　武内あや子　高橋千夏　尾高富佐子　鈴木行子　大岡静衣　久我洋子

活動寄付者: 太田恵子　加藤聖子　阿部幸子　廣田貞子　山田美也子　中山正子　長濱節子　奥田豊子　五十嵐康子　実践桜会

2011年6月30日まで（敬称略）

会員の皆さまへお願いとお詫び

今年度の会費が未納の方は、近日中にお振込みください。事業年度は、その年の1月から12月までです。どうぞ宜しくお願い申しあげます。手違いで一部の方に重複して請求してしまいました。心からお詫び申しあげます。

＊役員推薦委員会より

来年度の役員選出に向けて、9月に「候補者推薦依頼状」を会員の皆さまにお届けいたします。ご協力のほどを！

★編集後記

想像を絶する震災の直接の被害は、私ども役員の10人中3人に及び、本来の活動に支障をきたしてしまいました。春を迎えても、こころは晴れず、さくらが咲いても、花びらがグレーに見えました。芽吹いた樹木に自然がまだあったという小さな歓びに浸り、新緑の緑のなかで、やっと皆で力を合わせ、変革期を乗り切りたいと思うようになりました。ニューズレターもカラーにして明るくなり、制作費も1色刷りより1割以上減価になっています。上記のようにホームページも、7月11日より新ドメインになり、事務所のアドレスも変わりました。アクセスお待ちしております。（T）

UN Women 日本国内委員会東京地域委員会
UN Women東京 News Letter Vol.2
発行人：東京地域委員会会長　阿部 幸子
発行日：2011年7月30日

〒151-0053　東京都渋谷区代々木2－23－1
ニューステートメナー331
Tel&Fax　03－6228－0029
郵便振替：00190－6－5508800
http://unwomentokyo.org

国連・UN Women　ニュース

第55回国連婦人の地位委員会（以下ＣＳＷ）は、2011年2月22日から3月4日まで国連本部で開催され、私は政府代表団顧問として参加した。日本からは、長らく政府代表であった目黒依子氏に替わって、橋本ヒロ子氏が新たな代表として赴任された。ＮＧＯ参加者は約40名であった。

今回のCSWのハイライトはなんといってもUN Womenの発足である。2月24日夜には総会議場で盛大な発足記念式典が開催された。

今期の優先テーマは「完全雇用とディセントワークへの女性の平等なアクセスの推進を含む教育・訓練・科学・技術への女性と女児のアクセスと参画」であった。多くの国で、工学、科学・技術の分野へ進出する女性は少なく、このことが女性の職業分野を狭めている。貧困撲滅を目指す途上国で然り、日本でも然りである。

進出を妨げている要因として、さまざまなジェンダーステレオタイプが指摘されたが、二つの新しい視点が見えてきた。一つは、これまでの科学・技術が女性のニーズに応えてこなかったこと、二つ目は、女性は、人間工学的分野、たとえば、生物工学、経営工学等には進出していることである。今後、環境工学等のような人間工学的複合分野に女性が進出することで、技術も変わってくるであろう、変えていけばよいのだとのパネリストの発言が印象的であった。

2011.2.13 ～ 3.4

第55回 CSW（国連婦人の地位委員会）の帰朝報告

田中 正子 政府代表団 顧問（JAWW 代表）

2007年の優先テーマである「女児に対するあらゆる形態の差別と暴力撤廃」、および昨年の決議である「予防可能な妊産婦死亡・疾病の撲滅」についての実施評価が行われた。女児の問題は、日本をはじめ各国で児童ポルノ禁止などの法規制がなされているが、実効のほどはどうであろう。妊産婦死亡率の削減は、1990年比75%削減目標のところ34%にとどまっており、成果が上がっていない。MDG's　の中で唯一達成が危ぶまれている。

68パラグラフからなる今回のテーマの合意結論の和訳は、内閣府のウェブに掲載されている。来年のテーマは「農山漁村女性のエンパワーメント」である。

UN Womenの執行理事会では、本格的な稼動を前に、活動の中核となる優先的な5項目のテーマ領域を以下のように明らかにしました。

① 女性の発言権、リーダーシップ、参画を拡大し、これらの面のギャップを埋め、女性のリーダーシップが社会全体に及ぼす利益を実証できるようパートナーと協力する。
② 女性に対する暴力を根絶するために、各国が女性と女児を保護する法律、政策、サービスの履行に必要なメカニズムを設定できるよう支援する。
③ 紛争解決と和平構築への女性の完全参画を促し、女性・平和・安全保障の課題の実施を強化する。
④ グローバル経済と環境の危機という背景の中で、女性の経済的エンパワーメントを高める。
⑤ ジェンダー平等の優先策を国家、地方、部門の立案および予算案作成の中心とする。

戦略計画は、まもなく策定される予定です。

UN Womenミチェル・バチェレ事務局長より

「お見舞い状」届く！

２０１１年３月１４日

国際連合日本政府代表部
特命全権大使
西田恒夫 閣下

この度の東北関東大震災におきましては、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、遺族の皆様方に謹んでお悔やみ申し上げます。

また災害や怪我に遭われました皆様方には心よりお見舞い申し上げますとともに、昼夜を問わず災害支援に携わっていらっしゃる方々のご無事をお祈り申し上げます。

UN Womenは一丸となって、困難に立ち向かう勇気ある日本の皆様方を心よりご支援いたします。

UN Women事務局長
ミチェル・バチェレ

☆この度の第17回チャリティコンサートの収益の一部を被災した女性関連施設、および、被災女性・女子への物資、配布資金、その他被災女性・女子への義援金として寄付させていただきます。ご参加くださった皆さまに心より御礼申しあげます。

《会員便り》

会員の皆さま！
東日本大震災、心よりお見舞い申しあげます。

占星術から見た日本の未来

東京都板橋区在住
立木　冬麗さん

2011 年上半期は、昭和から平成へと時代が変わった年同様に、天空の惑星が次々と移動した。1月に木星が魚座から牡羊座へ、3 月に天王星が約 77 年ぶりに魚座から牡羊座へ、4 月に海王星が約 163 年ぶりに水瓶座から魚座へ、6 月には再度木星が牡羊座から牡牛座へと移動、この短い半年間に大惑星の移動は続き、天空では滅多にないことが起こっていた。その影響で、3 月 11 日に未曾有の東日本大震災が起きた。今年は時代が変わるほどの大異変が起こる年であり、多くの人の身の上に変化が訪れる年であると惑星配置により暗示されていた。

今回の大震災で福島原子力発電所など被害を受け、東北の被災地復興問題同様に、現在日本の最優先課題となっている。今年は改革に相応しい年であるので、震災を機にエネルギー問題は時代のニーズに合わせ大転換していくことは好ましい。現在、世界では約 400 基以上の原発が稼働中である。アメリカの 104 基、フランスの 58 基、日本の 54 基などが世界の多原発国である。地震大国でもある日本が多原発国であること自体、不自然な気がしてならない。この機会に日本もドイツのように脱原発国となり、新しい発電送電システムに取り組んでいくことを期待したい。

惑星の指示は「変わること」であるので、改革は天の力を得て成功する。

日本は建国記念日から水瓶座の国であると言える。水瓶座は天才のホールと言われ、守護星・天王星は「独創性」「発明」「進歩」「科学」を示す。天王星が 3 月 11 日から牡羊座入りしたことで、日本は牡羊座的になれば幸運を掴めるという暗示だ。

牡羊座は体の部位は「脳」を示し、パイオニア精神、フロンティア精神の星である。やはり日本は独創的な頭脳集団で勝負していくしかない。一番大事なのは教育である。今後、日本は勇気を持ち、ユニークな才能を世界に発信していけば、経済復興は確実であり、日本の未来は決して暗くはない。

「UN Women　日本」（日本国内委員会）
2010 年度「 *拠出金（10,818,542 円）*」の
支援プロジェクト決定のお知らせ！

○ アフガニスタン：女性の経済的安定性と権利、持続可能な経済的資産を築くチャンス
1,759,463 円
○ パキスタン：CEDAW を超えてーパキスタンにおける女性の人権を実現するための国家および国際的取り組みの実施促進
2,520,000 円
○ ボスニア・ヘルツェゴビナ：ジェンダーに基づく暴力への認識向上と宗教間対話に果たす女性の役割
1,008,000 円
○ フィリピン：ミンダナオにおける女性の平和と安全保障：国連安保理決議 1325 号および同決議に基づく「フィリピン国内行動計画」の地域における実施支援
1,700,000 円
○ 暴力撤廃基金：　2,131,079 円
○ コア資金：　1,700,000 円

「新作映画」紹介
スエーデン映画
「100,000 年後の安全」
井上 さつき

本作品は、フィンランドのオルキルオト島に建設中の原発から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場“オンカロ”（フィンランド語で「隠された場所」）と呼ばれる施設に世界で初めてカメラが潜入したドキュメンタリー映画だ。フィンランドの冬は零下 20 度、隣国ロシアからのパイプラインの栓が閉められたら、人は凍死する。原発に頼らざるを得ない国の状況だ。エネルギー源を確保することが、フィンランドにとって最大の安全保障なのだ。

現在世界に 25 万トンの高レベル放射性廃棄物が現存し、安全な状態になるまで 10 万年かかるという。フィンランドは固い岩盤を掘削し、地下 500 メートルに地下都市のような巨大な施設を自国の放射性廃棄物の最終処分場として作ることを計画し、正式な運用は 2020 年からという。完成した“オンカロ”は永遠に封じられ、誰も入ることができない。

「人類を核の脅威から守るというフィンランドの毅然としたグローバルな姿勢に敬意を払わざるを得ない」とスエーデン社会研究所所長の須永昌博氏は言う。